

平成31(令和元)年度 自 己 評 価 表

技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたまじわりと、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。		今年度の重点目標		1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み		
現状		年 度 当 初 目標 (年度末の目指す姿)		目標達成のための方策		
評価項目		経過・達成状況		各分野の具体的な取組 (中間評価)		
1 学 力 の 向 上	授業改革と学力の向上	【授業改革】 ◇研修会を実施 (学力向上研修 2 回、タブレット端末活用研修 1 回、職員の研修活用度は26%) ◇「一人一問」問題集を実施 (実施率91%) ◇職員への周知ははかり、延べ26名が他校のA公開授業に参加 (一昨年度17名) ◇タブレット端末を活用した教員の割合は76.7% ◇授業アンケートを各科で実施し、改善案を協議 ◇学校評価アンケートにおける生徒の授業満足度は、78.7% (一昨年度74.7%) 【学力の育成】 ◇進研模試における理数工学科の S 5 数値目標未達成 ◇基礎力診断テスト (12月実施) における基礎力不足層 (Dゾーン) の生徒数が、工業学科 1・2 年とも半数以上 ◇放課後の進学補習を計画しており実施 ◇基礎力定章に向け、各科で放課後補習や個別指導を適宜実施 【学習環境の整備】 ◇「5 S・あさひ」の実践に努めるが、良い学習環境を維持できている教室とできていない教室がある。	【授業改革】 ◇主体的・対話的で深い学びを実践する職員数の増加 ◇ICTを活用した授業の工夫 (タブレット端末を活用した教員の割合が80%以上) ◇80%以上の生徒が授業に満足と回答する授業づくり 【学力の育成】 ◇進研模試において、3 年生 5 教科SS46以上の生徒が10名以上 (理数工学科) ◇基礎力診断テストにおける、Dゾーンの生徒の減少 (全体の40%以下) ◇専門教育に対応する数学科の定着 【学習環境の整備】 ◇「整理・整頓・清掃」ができる生徒 ◇生徒自身による、落ち着いた学習環境づくり	【授業改革】 ◇学力向上研修会を年 2 回実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実践につなげる ◇校舎公開授業を隔年定期開催とすることで、校内・校外で他者の授業を参照・授業改善を図る ◇アクティブラーナー (授業研究のための活動) の研修会を開き、活用を推進する ◇授業アンケート及び集計結果に基づき授業改善を実施 【学力の育成】 ◇進学補習 (放課後補習、個別指導)、資格検定対策補習などを実施 ◇工業各科で数学・専門科目の基礎力向上につながる補習を実施 ◇成績不振者に対する補習を各教科適宜実施 【学習環境の整備】 ◇「5 S・あさひ」の励行による、教室整備と授業規律の確立	【授業改革】 ◇7月にアクティブラーナー利用研修を含めた学力向上研修会を実施 ◇校舎公開授業を隔年定期開催とすることで校内・校外で他者の授業を参照・授業改善を図る ◇タブレット活用研修会を実施、9 月末時点における職員のタブレット活用率は41% ◇他校の公開授業を案内、参加の呼びかけ ◇アクティブラーナーに関する情報を随時提供 ◇授業アンケートを実施し、教科ごとに改善案を検討 【学力の育成】 ◇進学補習 (放課後補習、個別指導)、資格検定対策補習などを実施 ◇工業各科で数学・専門科目の基礎力向上につながる補習を実施 ◇成績不振者に対する補習を各教科適宜実施 【学習環境の整備】 ◇全学年とも、落ち着いた授業に臨む姿勢が整う	【授業改革】 ◇12月に第 2 回学力向上研修会を実施予定 ◇手元にある授業を参照し、活用案を立案 ◇校外研修の案内と参加の呼びかけを継続 ◇教科で検討した改善案に従い授業を実施 【学力の育成】 ◇進学補習・検定補習を継続実施 ◇低学力層に対する補習の継続実施 ◇工業基礎学力テストに向け、各専門教科で粘り強く指導 【学習環境の整備】 ◇引き続き「5 S・あさひ」を励行、教室の環境整備・美化を継続
		【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間は理数工学科が増加、工業学科は減少 (理数工学科：198.5分/日、工業科：82.5分/日) ◇自宅学習時間調査に併せて IT 機器等利用時間を調査、IT 機器利用が平均 9 分増加、TV視聴時間は減少 (IT 機器利用115.3分/日、TV視聴時間38.4分/日) ◇授業開始・終了時の挨拶は概ねできている ◇各科で課題を適宜提示、学習意欲を喚起 ◇理数工学科ではフォーサイト手帳を活用し、自己管理の徹底 ◇各科・各教科による異種・後定の実験を実施 ◇年度当初及び夏休み明けに担任による面談を実施し、生徒の現状や進路希望を把握 【人権教育・性教育】 ◇性に関する指導を全学年で実施、他者の人権を尊重する態度の育成に課題 ◇特別支援を必要とする生徒の増加、支援方法に課題 【ハイパー・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ◇職員研修で全職員に生徒の現状を周知、クラス目標を設定 ◇クラスづくり、L H R・面談等に結果を活用するも、生徒自身の自己理解に課題 ◇いじめ問題に早期に対応、各教科でも人権教育を推進 ◇悩みを抱えている生徒が存在し、生徒が相談しやすい体制を整備することが必要 【指導力向上の職員研修】 ◇職員が人権教育に関する校外研修「一人一研修」における情報提供が不十分で、かつ L H R 等への研修成果の還元課題 (一人一研修は 4 割が参加) ◇情報提供は速やかに実施	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間の確保 (自習とする学習時間：理数工学科200分、工業学科90分) ◇規程ある授業期間、場に応じた適切な活動・集団行動のできる生徒 ◇物産管理、課題提示、時間の使いなどの、自己管理能力の涵養 ◇興味・関心を持ち、進路意識を向上させ、主体的に学習に取り組むことのできる生徒 【人権教育・性教育】 ◇生徒の人権意識が高揚し、他者の人権や存在を尊重できること ◇生徒の実態に合った支援方法により、特別支援を要する生徒が安心して生活できること 【ハイパー・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ◇自己理解が深まり、集団規律に順守できること ◇いじめが無く、学校生活を安心して送れること ◇悩みが相談しやすい雰囲気や確立 ◇学校が楽しいと思えること 【指導力向上の職員研修】 ◇職員の自主的な研修として「一人一研修」の参加を 8 割以上にすること ◇研修成果を教科や LHR 等に還元	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習調査の結果に基づいた各生徒への意欲喚起 ◇継続した各科の活動の適宜提示による、学習意欲の喚起及び向上 ◇引き続き、各科・各教科による異種・後定の実験の推奨、受験者への補習の実施 ◇引き続き、授業開始・終了時の挨拶をはじめとする「5 S・あさひ」の徹底 ◇面接の推進と継続による生徒の学校生活の態度・学習状況の把握 【人権教育・性教育】 ◇人権教育 LHR と性教育 LHR の実施 ◇特別支援計画を早期実施し、その支援に特別支援教育支援員を活用する 【ハイパー・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ◇1・2 年生 2 回、3 年生 1 回のハイパー・Q U を実施し、その態度データを取り取り活用についての職員研修を行う ◇いじめアンケート、学校生活広さ D X、相談等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等、関係分掌と情報を共有 ◇外部関係機関との連携 【指導力向上の職員研修】 ◇研修会や講演会の情報を発信し、研修会への参加を促進 ◇事前学習など人権教育 LHR の指導者の協議	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇6月1日自宅学習調査を実施、理数工学科215分、工業科96分で目標時間を達成 ◇授業の工夫をしたり、I C T を活用し授業を行っているが、授業に主体的に参加できない生徒もいる ◇適切な「5 S・あさひ」の日を設定し、整理整頓等を行っている ◇各検定に向けて補習を実施 ◇随時、担任等との面談を行い、生徒の状況を把握 【人権教育・性教育】 ◇特別支援教育支援員と連携し、支援を要する生徒への面談を行い、実態に合った支援を実施 ◇校内人権教育研修会 (職員向け) を実施 ◇人権問題講演会を実施 【ハイパー・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ◇ハイパー・Q U アンケートを実施し、その活用に関する職員研修会を 7 月に実施 ◇いじめ等に関するアンケートを実施し、問題の早期発見に努め、関係職員と連携し、適切に対応 ◇特別支援計画を作成し、活用 【指導力向上の職員研修】 ◇研修会や講演会の情報をごまに情報発信し研修会への参加を促進し、参加資料を共有化 ◇人権教育 LHR の指導案をもとに協議をしながら、人権教育 L H R 事前研修・事後研修の時間が十分には取れていない	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習調査を 2 学期末テストの前に実施予定 ◇アクティブラーナーの活用による授業の検討 ◇教室におけるルール・基準 (チーム) の徹底 ◇「5 S・あさひ」の日の継続実施 ◇異種・後定による面談の実施 ◇担任等による面談の実施 【学習環境の整備】 ◇引き続き「5 S・あさひ」を励行、教室の環境整備・美化を継続
2 豊 かな 人 間 性 の 育 成	豊かな人間性の育成	【基本的な生活習慣の確立】 ◇「5 S・あさひ」の考えは生徒、職員に浸透したが、主体的な取り組みに課題 ◇挨拶は改善傾向にあるが、自分から挨拶ができる生徒の割合は低調 ◇学校は落ち着いたものであるもの、ルール・マナー等に関する規範意識の更なる向上に課題 ◇服装検査で不適合となる生徒が全校で各回毎に平均23人 ◇正しい制服の着こなしが不徹底 【ボランティア活動】 ◇活動が活性化しており、その流れの継承が必要(平成30年度実績：60名) 【部活動、生徒会活動】 ◇生徒会役員は校内行事に参加しているが、各クラス役員の参加が少数に留まっている ◇平成30年度部活動実績：中国大会出場者数109人 (平成29年度より35人減少) 【環境改善】 ◇ T E A S 活動の 5 % の廃棄物の削減目標に対し4.6%削減と若干クリアできなかった、また電力使用量の 3 % 削減目標に対し、0.6%増とクリア出来なかった、現状に合った目標を設定し、活動を継続 【安全教育】 ◇昨年度、登下校時の自転車による事故が 5 件あり交通ルール・マナーの遵守に課題 ◇ S N S (ソーシャル・ネットワーク・サービス) 等の適切な取組に課題 ◇携帯電話とスマートフォンの「校地内での使用禁止」は概ね定着	【基本的な生活習慣の確立】 ◇「5 S・あさひ」に主体的に取り組める生徒の増加 ◇いじめなどでもいじめで自分から挨拶ができる生徒 8 割以上 ◇規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ◇服装検査の不適合者の半減 ◇正しい制服の着こなしの定着 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の参加者が30年比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ◇各クラス役員の活動し生徒会活動が活性化 ◇部活動において、平成30年度の中国大会出場者数と同等比 (全校生徒に対し) 104 人を維持 【環境改善】 ◇廃棄物は2016年度比5%減、電力消費は2016年度比1%減 【安全教育】 ◇交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得 ◇登下校時の無事故達成 ◇規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上	【基本的な生活習慣の確立】 ◇「5 S・あさひ」の取り組みを継続 ◇生徒・職員によるあいさつ運動の推進 ◇日常的な挨拶・服装指導 ◇服装検査の実施と継続的な声掛けを実施し、良好な状況である ◇面談全校集会、学年集会を開き、交通安全、学校生活全般における注意喚起を行う 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の場を広げ、奨励 【部活動、生徒会活動】 ◇各クラス役員、生徒会役員の体育祭や文化祭、球技大会の運営への積極的参加 ◇部活動における外部指導者、部活動指導員の活用 【環境改善】 ◇環境、環境 L H R、環境講演会等による教職員、生徒への啓発 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通安全指導の継続 ◇各種安全教室の実施 (携帯マナー講習、自転車安全、非行防止・薬物乱用防止教室等)	【基本的な生活習慣の確立】 ◇校内では、あいさつを連日できる生徒が多くなった ◇朝の立哨指導の実施 ◇服装の乱れは少なくなったが、各学年数人の服装指導再検査がある ◇各学年とも継続的な声掛けを実施し、良好な状況である ◇面談全校集会、学年集会を開き、交通安全、学校生活全般における注意喚起を行う 【ボランティア活動】 ◇ボランティア参加者数43名 (7月末) 【部活動、生徒会活動】 ◇体育祭、球技大会等の各行事において主体的に活動することができた ◇中国大会出場者は54名 (7月末) 【環境改善】 ◇ TEA S O 7 月までの達成状況は、廃棄物2016年度比3.0%増、電力2016年度比0.4%減となっている 【安全教育】 ◇朝の交通指導の実施、および春、秋のマナーアップさわやか運動への参加 ◇携帯マナー講習、自転車安全教室、非行防止教室を実施	【基本的な生活習慣の確立】 ◇「5 S・あさひ」の取り組みを継続 ◇朝の立哨指導の継続実施 ◇担任、学年、指導部による個人指導、面談 ◇学年指導部を中心とした服装検査の継続実施 ◇担任、学年、科の連絡を密に取組、未然防止に取り組む 【ボランティア活動】 ◇引き続きボランティア活動の場を広げる 【部活動、生徒会活動】 ◇関係分掌と連携し、より多くの生徒が部活動や生徒会活動に参加できるよう支援する ◇部活動における外部指導者、部活動指導者の継続的な活用と連携 【環境改善】 ◇達成状況を生徒・職員に周知し、廃棄物・電力使用量削減に努める 【安全教育】 ◇朝の交通指導の継続実施と、随時生徒への注意喚起を行う ◇各種安全教育の内容の見直しについての検討 (薬物乱用防止教室 1 月実施予定)
		【人材育成】 ◇資格・検定試験の受験者の割合が目標達成不十分 学校全体 (403/470：86.0%) ※受験者数/在校生数 1 学年 (149/149：100%)、2 学年 (139/165：84.2%)、3 学年 (115/156：73.7%、3 年間139/156：89.1%) ◇資格・検定試験の合格率が目標達成不十分 学校全体 (257/470：55.2%) ※合格者数/在校生数 1 学年 (115/149：77.2%)、2 学年 (72/165：43.6%)、3 学年 (70/156：44.9%、3 年間132/156：84.6%) ◇企業見学やインターンシップなどの対外的な行事は目標達成 【職業意識の育成】 ◇インターンシップ、アルバイト就業事業、企業見学、応募前職場見学、社会人講師による授業等を実施 ◇3 年生就職内定者は「ローワーク」主催の就職セミナーおよび本校独自の社会人基礎教育講座に全員が参加 ◇資格取得を奨励 【進路指導の徹底】 ◇5 月 3 年生進路説明会、10 月 1、2 年生分野別進路ガイダンスは保護者にも案内し実施(16名参加) ◇7 月の保護者懇談後、ハローワーク局取のジョブサポーターを招いて就職相談会を開催(14名参加) ◇経団連に「企業・学校説明会」を計23回実施し、企業等15社、事業所3、学校等5校来校し、生徒が直接企業や学校と話をする機会を促進 (昨年比+6 倍増) ◇教員 6 月が予定された10.面談本年度は少し早めの 5 月から実施したが、3 年生の動きは遅く、7 月になって動き出す生徒が多数 ◇進学補習を計画に基づき実施 ◇2 年生の個別進路面談は 3 学期実施 ◇基礎力診断テストにおける基礎力不足層 (Dゾーン) の生徒については、学年、教科担任と連携し指導した。 ◇1 回目の就職試験合格者90%未達成 (89%) ◇国公立大学合格者過半数を占めて10名未達成(6名)	【人材育成】 ◇年度末までに、一人一資格・検定試験以上にチャレンジ 年度末までに、一人一資格・検定に合格 ◇勤労観や職業観の定着 【職業意識の育成】 ◇地域や企業と連携した活動及び校内での進路行事等を通じ、職業観、勤労意識の育成、定着 ◇専門的な知識や技術・技能の定着 【進路指導の徹底】 ◇キャリア教育の視点に立ち、進路指導の早い段階での確立 ◇10 人面談により、礼儀、作法を身につけるとともにコミュニケーション能力を高めて受験 ◇一回目の就職試験合格者90%以上 ◇工業学科も含め様々な入試制度を活用し、適宜を含め国公立大学に10名合格 【企業、地域産業から求められる能力を取得】 ◇整理・整頓を行い、モノの位置を定めることで業務時間の短縮を実現する ◇業務内容の把握に当たり、QCA トーに則して計画、見直し、次回に向けた修正を行い、業務内容の理解と実施のための時間を確保する ◇部活動における休業日、活動時間を設定し、時間外業務80時間以上の勤務者を解消する ◇職員の R 元年度の平均時間外業務時間は129年度比20%削減をめざす	【人材育成】 ◇3級技能検定をはじめとして、多くの資格・検定試験にチャレンジした (1 年：74/137、2 年：109/148、3 年：66/163) ◇合格者数、3級技能検定電子機器組み立て83% (24/29)、初級 CAD 検定80% (30/37)、第二種電気工事士60% (18/31) ◇高校生のズバリシステム大会への参加の啓発指導の継続 ◇資格・検定への適切な活用管理 ◇資格取得奨励が有効な学習計画の立案と指導・支援の実施 ◇校内の資格検定 DB の入力が不十分 【職業意識の育成】 ◇引続きインターンシップ、各企業見学等の事前指導を徹底 ◇就職者は、夏季の就職ガイダンス、冬季の就職セミナー、社会人としての基礎教育講座に積極的に参加 ◇アルバイト就業事業の紹介 ◇継続した資格取得の奨励 【進路指導の徹底】 ◇改訂した「進路の手引き」を活用し、進路 L H R を行う。 ◇校内の進路行事には、保護者にも案内し、生徒と共に進路の検討機会を提供 ◇「企業・学校説明会」の呼びかけを場外にも広げ、5 月からスタート (30回実施を目標) ◇10.面接希望者候補から面談を実施し、試験までに確実10 人終了させる ◇10.面接希望者全員が実現、就職希望者全員が終了し出願 ◇就職が内定した生徒に対し、企業が課題をいただき取り組ませ、社会人としての意識を喚起 ◇2 年生就職希望者は、3 学期にキャリアアドバイザーとの面談を実施し、3 年度の進路決定への取り組みを円滑にサポート ◇基礎力診断テストを含め外部模試の結果を担任、教科ヘイードバック、効果的な指導を実施 ◇3 年生就職希望者は、朝読書の時間を活用して一般常識問題や S P I の勉強を試験まで実施 ◇1,2 年分野別進路ガイダンスへの参加を保護者へも案内	【人材育成】 ◇インターンシップなどの各事業ごとに継続指導を行い、生徒への進路意識を徹底 【情報発信】 ◇行事ごとにタイミングを考え、保護者への参加を促す H P やまちこみメールの継続活用 ◇各事業への出席、タイムラインの記事を H P 等で情報発信 【地域との連携】 ◇津・丹地域懇談会、ふるさとづくりまつり、地域文化祭などの積極的な参加により、地域とのより一層の交流 ◇アクラボランティア等の継続実施による地域貢献活動の充実 【P T A 活動の推進】 ◇保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化 ◇保護者、地域の方々が本校の生徒指導方針に向けた生徒の見守り ◇継続事業を踏まえて、保護者などが参加しやすい新規事業の計画	【人材育成】 ◇企業見学、インターンシップなど各事業は概ね実施済、後期も一部継続して実施 【情報発信】 ◇ H P の更新は昨年引き続き、増加傾向 ◇出席授業や中学校体験入学など関係良好な反応は良好、進路選択への影響を期待 ◇学年通信などを随時発行し、学校の見え方を固めている学年あり 【地域との連携】 ◇津・丹地域懇談会、地域文化祭などの積極的な参加により、地域の一層の交流を深める ◇アクラボランティア等の継続実施による地域貢献活動への参加 【P T A 活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールを発信 ◇各事業の参加者はクラス減などの影響もあり、昨年同様な傾向に減少傾向 ◇行事を精選の上、内容を検討しながら研修会は本年度も継続して実施
3 キ ャ リ ア 教 育 の 充 実 と 進 路 実 現	キャリア教育の充実と進路実現	【職業意識の育成】 ◇インターンシップ、アルバイト就業事業、企業見学、応募前職場見学、社会人講師による授業等を実施 ◇3 年生就職内定者は「ローワーク」主催の就職セミナーおよび本校独自の社会人基礎教育講座に全員が参加 ◇資格取得を奨励 【進路指導の徹底】 ◇5 月 3 年生進路説明会、10 月 1、2 年生分野別進路ガイダンスは保護者にも案内し実施(16名参加) ◇7 月の保護者懇談後、ハローワーク局取のジョブサポーターを招いて就職相談会を開催(14名参加) ◇経団連に「企業・学校説明会」を計23回実施し、企業等15社、事業所3、学校等5校来校し、生徒が直接企業や学校と話をする機会を促進 (昨年比+6 倍増) ◇教員 6 月が予定された10.面談本年度は少し早めの 5 月から実施したが、3 年生の動きは遅く、7 月になって動き出す生徒が多数 ◇進学補習を計画に基づき実施 ◇2 年生の個別進路面談は 3 学期実施 ◇基礎力診断テストにおける基礎力不足層 (Dゾーン) の生徒については、学年、教科担任と連携し指導した。 ◇1 回目の就職試験合格者90%未達成 (89%) ◇国公立大学合格者過半数を占めて10名未達成(6名)	【職業意識の育成】 ◇地域や企業と連携した活動及び校内での進路行事等を通じ、職業観、勤労意識の育成、定着 ◇専門的な知識や技術・技能の定着 【進路指導の徹底】 ◇キャリア教育の視点に立ち、進路指導の早い段階での確立 ◇10 人面談により、礼儀、作法を身につけるとともにコミュニケーション能力を高めて受験 ◇一回目の就職試験合格者90%以上 ◇工業学科も含め様々な入試制度を活用し、適宜を含め国公立大学に10名合格 【企業、地域産業から求められる能力を取得】 ◇整理・整頓を行い、モノの位置を定めることで業務時間の短縮を実現する ◇業務内容の把握に当たり、QCA トーに則して計画、見直し、次回に向けた修正を行い、業務内容の理解と実施のための時間を確保する ◇部活動における休業日、活動時間を設定し、時間外業務80時間以上の勤務者を解消する ◇職員の R 元年度の平均時間外業務時間は129年度比20%削減をめざす	【職業意識の育成】 ◇引続きインターンシップ、各企業見学等の事前指導を徹底 ◇就職者は、夏季の就職ガイダンス、冬季の就職セミナー、社会人としての基礎教育講座に積極的に参加 ◇アルバイト就業事業の紹介 ◇継続した資格取得の奨励 【進路指導の徹底】 ◇改訂した「進路の手引き」を活用し、進路 L H R を行う。 ◇校内の進路行事には、保護者にも案内し、生徒と共に進路の検討機会を提供 ◇「企業・学校説明会」の呼びかけを場外にも広げ、5 月からスタート (30回実施を目標) ◇10.面接希望者候補から面談を実施し、試験までに確実10 人終了させる ◇10.面接希望者全員が実現、就職希望者全員が終了し出願 ◇就職が内定した生徒に対し、企業が課題をいただき取り組ませ、社会人としての意識を喚起 ◇2 年生就職希望者は、朝読書の時間を活用して一般常識問題や S P I の勉強を試験まで実施 ◇1,2 年分野別進路ガイダンスへの参加を保護者へも案内	【職業意識の育成】 ◇インターンシップによる授業等を実施 ◇各社会人講師による授業等を実施 ◇3 年生就職希望者33名全員が夏休みの就職ガイダンスに参加 ◇夏季アルバイト就業事業に5名が参加 ◇資格取得を奨励 【進路指導の徹底】 ◇改訂した「進路の手引き」を用いた進路 L H R を展開 ◇5 月の 3 年生進路ガイダンス、10 月 1、2 年生分野別進路ガイダンスは保護者にも案内 ◇7 月の保護者懇談会、ハローワーク局取のジョブサポーターを招いて就職相談会を開催 ◇休校中に「企業・学校説明会」を計30回実施(昨年比+6 倍増) ◇10.面接希望者全員が実現、就職希望者全員が終了し出願 ◇1 回目の就職試験合格者90%以上 ◇2 年生就職希望者は、朝読書の時間を活用して一般常識問題や S P I の勉強を試験まで実施 ◇1,2 年分野別進路ガイダンスへの参加を保護者へも案内	【職業意識の育成】 ◇11月の県府市雇用促進協議会主催の企業見学会に 2 年生が参加予定 ◇冬季アルバイト就業事業を生徒へ紹介予定 ◇就職内定者は、冬季開催の就職セミナーや社会人としての基礎教育講座に参加予定 ◇継続した資格取得の奨励 【進路指導の徹底】 ◇定期的に面談の機会を設定、担任・科職員による面談の実施 ◇進学補習を休講にするごなく実施し国公立大学合格を目指す ◇基礎力診断テストを含め外部模試の結果を担任、教科ヘイードバックし効果的な指導を検討 ◇就職が内定した生徒に対し、企業が課題をいただき社会人としての意識を高揚 ◇キャリアアドバイザーによる 2 年生の個別進路面談を 3 学期に実施予定
		【人材育成】 ◇企業見学、インターンシップなどの各事業を予定通り実施 【情報発信】 ◇ H P の更新も昨年引き続き、増加傾向 ◇出席授業や中学校体験入学など関係良好な反応は良好 ◇学年通信などを随時発行し、学校の見え方を固めている学年あり 【地域との連携】 ◇桜ヶ丘グランドゾーンの清掃活動は荒天のため中止 ◇テイクボランティア等は昨年通り 7 月と12月に実施 【P T A 活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールを発信し、参加者の増加を促した ◇各事業の参加者はクラス減などの影響もあり、やや減少傾向 ◇一昨年から継続事業として、手話講演会 (7 月：17 名参加) を実施	【人材育成】 ◇企業、地域産業から求められる能力を取得 ◇生徒自身が個性を活かせる企業へ就職 【情報発信】 ◇「もてつくり」の体験を含めた地域や小・中学校等との交流と積極的な情報発信 ◇「もてつくり」の体験を含めた地域や小・中学校等との交流と積極的な情報発信 ◇各事業への出席、タイムラインの記事を H P 等で情報発信 【地域との連携】 ◇生徒の自主的にボランティア等、地域と連携した貢献活動への参加 【P T A 活動の推進】 ◇保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化 ◇保護者、地域の方々が本校の生徒指導方針に向けた生徒の見守り ◇継続事業を踏まえて、保護者などが参加しやすい新規事業の計画	【人材育成】 ◇インターンシップなどの各事業ごとに継続指導を行い、生徒への進路意識を徹底 【情報発信】 ◇行事ごとにタイミングを考え、保護者への参加を促す H P やまちこみメールの継続活用 ◇各事業への出席、タイムラインの記事を H P 等で情報発信 【地域との連携】 ◇津・丹地域懇談会、ふるさとづくりまつり、地域文化祭などの積極的な参加により、地域の一層の交流を深める ◇アクラボランティア等の継続実施による地域貢献活動の充実 【P T A 活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールを発信 ◇各事業の参加者はクラス減などの影響もあり、昨年同様な傾向に減少傾向 ◇行事を精選の上、内容を検討しながら研修会は本年度も継続して実施	【人材育成】 ◇企業見学、インターンシップなど各事業は概ね実施済、後期も一部継続して実施 【情報発信】 ◇行事ごとにタイミングを考え、保護者への参加を促す H P やまちこみメールの継続活用 ◇出席授業や中学校体験入学など関係良好な反応は良好、進路選択への影響を期待 ◇学年通信などを随時発行して学校の見え方を固めている学年あり 【地域との連携】 ◇津・丹地域懇談会、地域文化祭などの積極的な参加により、地域の一層の交流を深める ◇アクラボランティア等の継続実施による地域貢献活動への参加 【P T A 活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールを発信 ◇各事業の参加者はクラス減などの影響もあり、昨年同様な傾向に減少傾向 ◇行事を精選の上、内容を検討しながら研修会は本年度も継続して実施	【人材育成】 ◇企業見学、インターンシップなど各事業は概ね実施済、後期も一部継続して実施 【情報発信】 ◇行事ごとにタイミングを考え、保護者への参加を促す H P やまちこみメールの継続活用 ◇出席授業や中学校体験入学など関係良好な反応は良好、進路選択への影響を期待 ◇学年通信などを随時発行して学校の見え方を固めている学年あり 【地域との連携】 ◇津・丹地域懇談会、地域文化祭などの積極的な参加により、地域の一層の交流を深める ◇アクラボランティア等の継続実施による地域貢献活動への参加 【P T A 活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールを発信 ◇各事業の参加者はクラス減などの影響もあり、昨年同様な傾向に減少傾向 ◇行事を精選の上、内容を検討しながら研修会は本年度も継続して実施
4 業 務 改 善 の 取 組	業務改善の取組	◇整理・整頓が不十分で、資料を探したりする時間や資料の作り直しなどが、勤務時間の増加の一因となっている ◇各行事等の実施が十分に引き継がれていないため、他の業務担当者と共有できず非効率な実施になっているところがある ◇部活動の大会実施要領を整理し、練習時間が増え、勤務時間の増加につながっている ◇職員の R 30 年度の平均時間外業務時間は129年度比10%削減を達成	◇5 S の実践により、業務場所や共有フォルダの整理・整頓を行い、モノの位置を定めることで業務時間の短縮を実現する ◇業務内容の把握に当たり、QCA トーに則して計画、見直し、次回に向けた修正を行い、業務内容の理解と実施のための時間を確保する ◇部活動における休業日、活動時間を設定し、時間外業務80時間以上の勤務者を解消する ◇職員の R 元年度の平均時間外業務時間は129年度比20%削減をめざす	◇業務内容の把握に当たり、担当ごとの要項または手順書を作成し、業務終了後は修正を行い共有フォルダに保存する ◇短期間での計画による効果的な指導を行う ◇時間外業務の管理を管理職が適宜メール・フィードバックすること、時間外業務の削減を推進する	◇執務室の清掃については各部署ごとに実施、共有フォルダの使用ルールを設定したが、サーバーの移行に伴う問題により予定通りの運用になっていない ◇業務内容の把握に当たり、担当ごとの要項または手順書を作成し、業務終了後は修正を行い共有フォルダに保存する ◇短期間での計画による効果的な指導を行う ◇時間外業務の管理を管理職が適宜メール・フィードバックすること、時間外業務の削減を推進する	◇執務室の清掃については各部署ごとに実施、共有フォルダの使用ルールについては見直しを検討する ◇業務内容に当たり、担当ごとの要項または手順書を作成し、業務終了後は修正を行い共有フォルダに保存する ◇短期間での計画による効果的な指導を行う ◇時間外業務の管理を管理職が適宜メール・フィードバックすること、時間外業務の削減を推進する

注) S 5 : 整理・整頓・清掃・清潔・整、あさひ : 挨拶・作法・人の話を聴く、ハイパー・Q U アンケート : よい学校生活と進路づくりのためのアンケート、デマシシステム : 学校の授業と並行して企業で学習するシステム、テラボランティア : 学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動、AL : アクティブラーニング、QC (品質管理) ストリー : 問題解決の手順
評価基準 A : 十分達成(100%) B : 概ね達成(80%程度) C : 変化の兆し(60%程度) D : ほぼ不十分(40%程度) E : 目標・方策の見直し(30%以下)